



文 譯 報 電 信 受  
社 會 式 株 事 商 菱 三



人 信 受	定 指
金 屬 部 長	
人 信 發	昭 和 四 年 八 月 三 一 日 午 前 九 時 四 分
紐 育 支 店 長	
人 投 取	午 後 五 時 五 分
業 務 部	

◎歐洲情勢緊迫ト對米輸入金屬類對處策ノ件  
(米國情報第廿六報)  
歐洲情勢險惡化、市場氣迷氣分ナルモ銅其他期近物至急手當ノ要アリ、此  
上トモ急ガレ度  
屑鐵品薄、益々強含、日本側思惑買アル模様

以 上

04049

4

文 譯 報 電 信 受  
社 會 式 株 事 商 菱 三



人 信 受	定 指
業 務 部	
人 信 發	昭 和 四 年 九 月 二 日 午 前 八 時 五 分
羅 馬 駐 在 員	
人 投 取	午 後 七 時 〇 分
業 務 部	

◎時局ト伊太利狀勢ノ件(歐洲情報第三〇報)  
時局ニモ不拘、伊太利比較の平穩

以 上

04048

3

〒 11. 8-3000

受信電報譯文  
三菱商事株式會社

寫

人信受	定指
業務部長	
人信發	昭和十四年九月二日午後四時一分發
紐育支店長	
人取取	業務部

歐洲動亂ト米國情勢ノ件(米國情報第廿九報)

日夜ヲ分タザル歐洲ヨリノ飛電ニテ國內人氣動搖熾マズ、大統領ハ歐洲情勢ニ依ル國內ノ動搖ヲ削壓スル爲、法律ニ依ルノミナラズ、其ノ權限ヲモ極度ニ發動スベシト見ラレ、一方經濟界ニモ或種ノ統制行ハル、ニ非ズヤト思ハル、モ、未ダ具體的ノ發表ナシ

大統領ハ國內新聞、通信業者ニ最善ノ協力ヲ求メタルガ、米國船舶ノ歸國命令ヲ發シタル事ニ付テハ之ヲ秘セリ、當地一般宣戰不可避ト見ル者多ク、不安益々濃厚ナレドモ、一部ニテハ英佛ノ參戰遲キ點、並ニ各國民共極度ニ戰爭ヲ嫌ヒ居ル點ヨリ推シテ、或ハヒツトテノ手ニヨリ事態擴大セズ、一應終局ヲ告グルニ非ズヤト見ル者モアル

加奈陀政府モ今朝閣議ヲ開キ、來ル十一日議會ヲ召集、夫迄緊急政策ヲ採ルト言フ

以上

改政情

04050

5

REEL No. A-0314



秘

電信寫

昭和14 二九八六五 (暗) ワルソノ 九月一日後發  
本省 二日前着

阿部外務大臣

酒匂大使

第二四〇號(至急)

一日東方部長カ井上ニ語レル所ニ依レハ獨逸軍ハ午前五時何等ノ  
告ナク東「プロシヤ」、「ボスチナ」、「シレジア」、「スロバキ  
ア」ノ四方面ヨリ一齊ニ進撃ヲ開始シ「カトビツチ」、「チエンス  
トホワ」、「クラコロ」、「グルージョンズ」、「ブツク」ヲ襲撃  
セリ波蘭軍ハ午前七時行動ヲ起シタリ「ワルソノ」ハ獨逸三機三回  
襲撃セルモ撃退セラレタリ  
在歐各大使、幕府へ轉電セリ

必政情

6

04051

電信寫

昭和14 二九八三九 平 プダベスト 九月一日後發  
本省 二日前着

阿部外務大臣

武内代官公使

第一〇三號

獨逸ハ「レ」總統ノ命ニ依リ波蘭軍ニ對シ本一日ヨリ機動行爲ヲ  
開始シ獨逸軍ハ十時「ワルソノ」ヲ襲撃セリ

必政情

7

04052

REEL No. A-0314



電信寫

昭和14 二九八三四 平 倫敦 九月一日後發  
本省 二日前着

阿部外務大臣

第一〇三〇號(至急)

獨逸ハ一日「ダンチヒ」ノ併合ヲ斷行シ波蘭ニ向テ東普魯西亞「  
シレジア」ノ「スロベキア」ノ三路進撃ヲ開始シ波蘭都市ノ爆撃ヲ  
始メタルコト報セラル

歐情

重光大使

(了)

04053

8

電信寫

昭和14 二九八三六 平 伯林 九月一日後發  
本省 二日前着

阿部外務大臣

合第一四號(大至急)

靖國丸ハ英佛參戰ノ場合ハ至急巴奈馬經由(遞信省ヨリ本經路指  
アリ)日本向ケ出發方御配慮煩慶シ(了)

大島大使

歐情

9

04054

電信寫

昭和14 二九八三五 平 伯林 九月一日後發  
本省 二日前着 歐情

阿部外務大臣

大島大使

第八九七號 (大至急)

一日午前十一時四十分「ラヂオ」放送ニ依ンハ一日早朝獨逸軍隊ハ  
全獨波國境ヲ越エ空軍ハ同時ニ波蘭ニ向ヒ出發シ海軍ハ「オストゼ  
」ヲ確保シタル趣ナリ  
英、佛、伊、波、蘇ニ轉電セリ

歐情

10

04055

極秘

昭和14 二九八三七 (暗) 伯林 九月一日後發  
本省 二日前着 歐

阿部外務大臣

大島大使

第八九九號 (至急、極秘)

一日ノ議會ニテ出會ヒタル當地伊太利參事官ハ本使ニ對シ獨逸カ波  
蘭ノミト戰爭スル間ハ伊太利ハ好意的中立ヲ保チ英佛カ起テタル場  
合ニハ決然態度ヲ決スルコトトナルヘント語リタリ御參考迄  
在歐各大使、米、露府ニ轉電セリ

歐情

11

04056

電信寫



電信寫

昭和14 二九八三二 平 巴里 九月一日後發  
本省 二日前着 歐  
阿部外務大臣 宮崎代理大使  
第五五〇號 (至急)  
一日閣議ハ既報總動員令 (實施初日ハ明二日)ノ外佛本國及「アル  
ゼリー」ニ於ケル戒嚴令及明二日ノ議會召集ヲ決セリ  
在歐大使ニ轉電セリ

歐政情

04058

13

電信寫

昭和14 二九八三二 平 巴里 九月一日後發  
本省 二日前着 歐  
阿部外務大臣 宮崎代理大使  
第五四九號 (至急)  
一日正午總動員令下レリ  
在歐大使ニ轉電セリ

歐政情

04057

12

秘

電信寫

昭和14 二九六八六 暗 亞歷山 八月卅一日夜發 歐  
本省 一日前着  
阿部外務大臣 横山公使

第一號  
本使發土宛電報  
第五號

一、亞歷山ヨリ英曳網艦 Landfoll 及 Crescent Mozen 坡西土ニ來レル  
カ右ハ同港及巡河入口ヲ金屬線ヲ以テ封鎖スル爲ナリト云フ  
二、英海軍當局ノ命ニ依リ一切ノ英國船及佛國船ハ新ナル命アル迄坡  
西土ヨリ巡河又ハ北方ニ向テ出港スルヲ禁止セラレタリ

三、卅一日早朝英國空軍將校一七〇〇名亞歷山ニ上陸、高射砲機銃等  
モ到着ス  
大臣へ轉電セリ

政情

04060

04059



電信寫

昭和14 二九八四八 平 巴里 九月一日午後  
本省 二日前着 宮崎代理大使

第五五一號

一日午後一時情勢

佛ハ既ニ出來得ル丈ケノ準備ハ爲シ居レリ覺悟モ定マリ突撃命令ヲ  
待ツ姿ナリシ丈ケニ獨波戰爭開始、佛國總動員、戒嚴令發令等ハ遂  
ニ來ルヘキモノカ來レリトノ感想ヲ與ヘ居ルモ未タ一般ニ露付キ居  
リ恐慌氣分ナシ市外立退者愈多ク又街頭ニ新聞ヲ讀ム者多シ天氣陰

歐政情

04061

電信寫

昭和14 二九六六四 平 本省 九月一日前着

阿部外務大臣

第二四二號

印度政府ハ三十日附官報公告ヲ以テ登録令ヲ發表シタルカ右ハ非常  
事態ニ鑑ミ在印度英國臣民ニ登録ヲ強制スル必要ヲ生シタルニ依ル  
モノナリ、即日施行ヲ見タル處之ニ依リ陸、海、空軍人牧師其ノ他  
ヲ除キ目下印度ニ在ル十六歳以上五十歳未滿ノ總テノ英國臣民ハ一  
定期間内ニ登録ヲ要スルコトナレリ尙同時ニ本登録令ニ基キ公布  
實施セラレタル登録規則ハ英國臣民カ十四日以内ニ了スヘキコトヲ  
定メタリ  
英ニ轉電シ孟買、蘭貢ニ郵送セリ

若松總領事

歐政情

04062

政情

17

昭和14 二九七八二 平 函致 九月一日前發

本省 一日夜着

歐

阿部外務大臣

重光大使

第一〇二八號

一般的情報

一、三十一日夜獨逸政府ハ波蘭問題解決案ヲ公表セリ爲念(特情第一〇二號)

二、私電ハ總テ本夕ヨリ檢閲ヲ要シ新聞電報モ其佛語ニ限ラルルコトトナレリ

三、本日以降「イングランド」及「スコットランド」ノ一部ニ於ケル民間航空ヲ禁止セリ

(了)

04063

電信寫

18

昭和14 二九八七〇 平 華府 九月一日後發

本省 二日前着

歐、情

阿部外務大臣

堀内大使

第九〇三號

「ロシアン」英國大使ハ三十一日着任、最初ノ記者會見ニ於テ歐流根據ニ付テハ言ヲ避ケタルモ英ハ海外屬領ノ支持ヲ受ケ居ル旨及大當初ヨリモ團結セル英國民ハ平和手段ニ依リ條約改訂問題、準備少ク條件トスル植民地問題ニ付全面的考慮ヲ爲スノ用意アル旨述又現下ノ時局ハ舊來ノ日英親交復活ノ好機ナリヤトノ問ニ對シテ日英同盟後ノ事態ハ激變シ將來ノ對日關係ハ九箇國條約ノ根據及精神ニテ律セラルヘキモノナリト答ヘタル趣ナリ

ニ郵送セリ

04064

電信寫



秘

極秘

電信寫

昭和14 二九八五〇 暗

ヘルシンキ 九月一日午後  
本省 二日前着

阿部外務大臣

杉下公使

第六九號（極秘）

往電第六八號ノニニ關シ

諜報者カ政府筋ヨリ得タルモノトシテ誤ラシタル所ニ依レハ時局ニ  
對シ當國ノ軍事的措置ニ關スル問題カ既ニ度々閣議ニ議セラレ居ル  
ハ勿論ナル處閣議ノ見解ハ戰爭ノ場合獨逸カ芬蘭領土ノ完全往ヲ害  
スルカ如キハ蘇聯ノ利害關係ニ觸ルル所ナルヲ以テ獨逸ハ蘇聯不  
略條約ノ締結セラレタル今日之ヲ行ハサルヘク芬蘭カ最大關心ヲ有  
セサルヘカラサルハ對蘇國境ノ防衛準備ナリ然レトモ右ハ直接蘇聯

ヲ目標トスル措置ナルヲ以テ之ニ付テハ慎重ヲ要ストナクニ在リ而  
シテ當國政府ハ「エストニア」、「ラトヴィア」國境地方及蘇ニ  
「レーニングラード」方面ニ對スル蘇聯ノ軍事的動キノ有無ニ大ナ  
ル注意ヲ拂ヒツツアル次第ナリト云フ  
英、挪、伊、波、蘇、「リガ」へ轉電シ瑞典へ暗送セリ

改政情

04066

04065

政情

14 二九八七二 略 倫敦 九月一日後發  
本省 二日前着

内山總領事

第一九號

往電第一一號末段ニ關シ

御承知ノ通り靖國丸ノ當國寄港不可能トナリ鹿島丸亦大陸ヨリノ避難民收容ニ依リ當國ヘノ廻航ハ困難トナルヘキヤニ察セララルルニ付在英邦人ヲ避難セシムル爲ニハ九月十八日倫敦着ノ豫定ナル箱根丸(目下坡西土附近ニ在リ)ヲ留保スルノ外ナキ處若シ同結ニ對シ在英同胞ハ數ニ於テ全歐洲居留民ノ約半數ヲ占ムル事情ヲモ御諒察ノ上事態ノ許ス限り同船ハ主トシテ當國在留民ノ避難用トシテ特ニ英

電信寫

國ニ廻航スル様關係官廳トモ御打合ノ上同船ニ對シ海軍指令方然ルヘク御取計ヲ請フ

尤モ當地避難民ノ數ハ今後形勢ノ推移モアリ愈便船決定セサレハ判明シ難ク從テ收容人員ニ餘裕アル場合ハ敢テ他ヲ排除スル次第ニアラサルモ當國在留民ニ優先權ヲ與ヘラレタキ希望ナリ(大使館及郵船下連絡濟)

(丁)

04068

04067



電信寫

阿部外務大臣  
第一九二號

武府 九月一日後發  
本省 二日前着

來栖大使

其ノ後白廳政府ノ執リタル時局對策左ノ如シ

一、三十一日夜第三圖ノ動員（總動員兵力ヲ五圖ニ分ツ）ヲ行フコト

ニ決定シ即時右動員命令ヲ發ス

三、軍隊等ノ構成、指揮、駐屯、移動、軍事施設等ニ關スル軍事情報

ノ發表ヲ一定期間禁止ス（二十五日王令）

三、主ナル食糧、各種ノ武器彈藥類、運輸機關、通信料、燃料、車鐵

鑛石及金屬、藥品等ノ輸出入及通過ハ特別許可ヲ要ス（二十五日王令）

（了）

政情

21

04069

秘

電信寫

昭和14 二九八五一 略  
阿部外務大臣  
第一九三號

武府 九月一日後發  
本省 二日前着

來栖大使

一日朝情報部長内話要領

一、往電第一八七號ノ件ハ昨夕英伊ヨリ在白大使ヲ通シ同答アリ伊

答ハ獨逸ト同趣旨ナリ尤モ既ニ波蘭ニ對スル獨逸軍ノ攻撃開始

ラレ「ダンチツヒ」ノ獨逸併合宣言セラレタル今トナリテハ萬

休ス

三、「オスロー」協定諸國ノ小委員會本日既ニ開會中ナルカ中立諸國

ノ糧食其ノ他經濟問題ノ審議ヲ主トスルモノナリ  
在歐米各大使、閣、閣員、芬蘭へ傳電セリ

政情

22

04070

秘

昭和14 二九八六九 (暗) 巴里 九月一日後  
本省 二日前着 歐

阿部外務大臣 官崎代理大使

第五五三號

材料 (三十一日)

(一)「ビュリコフ」ハ、産黨方面ニ對シ蘇獨條約ノ目的ハ防共陣營ヲ破壊シテ各個撃滅ヲ爲スニ在リ獨伊ト英佛トハ共倒レトナルヘク一度戰爭トナリタル以上ハ出來得ル丈ケ永ク戰ハシムルヲ要シ歐洲革命ハ必然トナルヘク他方日本ヲ孤立サセ支那ノ抵抗ト蘇聯邦ノ攻撃(戰爭ノ必要ナシ)トニ依リ之ヲ消耗セシムルヲ得ヘク此ノ遠謀深慮ヲ解セサルハ馬鹿ノ骨頂ナリト説明シ居リ尙汪精衛ノ

電信寫

運動ハ相當厄介ナリ警戒ヲ要スト言ヘル由

(二)「ナジャール」駐蘇大使歸巴報告セル所ニ依レハ蘇聯邦カ獨逸ト結ヒタル理由ノ中ニハ内政上ノ困難大ナルコト、從テ戰爭回避ノ要アルコト、歐洲大戰ヲ是非起サセタキコト、東洋問題ノ大切ナルコト、極東軍ニ關シ困難アルコト(國內的困難ナリヤ日本トノ武力衝突ニ不安アリトノ意ナリヤ不明)等カ擧ケラレタル由

(了)

改政情

04072

04071



電信寫

昭利14 二九八五二 平 伯林 九月一日後發  
本省 二日前着 歐  
阿部外務大臣 大島大使  
第八九八號  
獨蘇不可侵條約ハ八月卅一日莫斯科及伯林ニ於テ夫々批准ヲ了セル  
旨八月卅一日發表セラレタリ  
英、佛、蘇、伊ニ轉電セリ

歐政情

25

04074

秘

電信寫

昭利14 二九八六一 略 羅馬 九月一日後發  
本省 二日前着 通、歐  
阿部外務大臣 白鳥大使  
第二六八號  
貴電第一七八號ニ關シ（伊國ノ爲替取引禁止ニ關スル件）  
別段法令出テタル次第ニハアラサルモ事實上ノ措置トシテ爲替省ヨ  
リ關係銀行ニ對シ對外拂見合方内命出テ居レリ（了）

歐政情

24

04073

電信寫

昭和14 二九八五四 平 伯林 九月一日後發  
本省 二日前着 歐  
阿部外務大臣 大島大使  
第九〇〇號  
一日午前陸海空軍長官ハ各軍ニ對シ國家興廢ノ分ルルトキ各員ノ奮  
起ヲ希望スル趣旨ニテ布告ヲ發シタリ(了)

歐政情

04076

電信寫

昭和14 二九八六八 平 ベルン 九月一日後發  
本省 二日前着 歐  
阿部外務大臣 天羽公使  
第一三五號  
往電第一二七號ニ關シ  
瑞西政府ヨリ公文ヲ以テ中立宣言ヲ通知シ在東京瑞西公使ヨリ日本  
政府ニモ傳達方訓令シタル旨申越セリ他ノ大公使ニ對シテモ同様ノ  
措置ヲ執リタル趣ナリ公文郵送  
在歐各大公使、壽府へ郵送セリ

歐政情

04075



秘

昭和14 二九八四五 暗 新嘉坡 九月一日後發 歐、電、情  
本省 二日前着

阿部外務大臣

岡本總領事

第二三七號

往電第二三〇號ニ關シ

電信寫

本一日ヨリ等ヒ電報郵便ノ檢閲ヲ開始スル旨民政長官ヨリ申越セリ  
當館暗號電報ニ付テハ本省トノ間ノミヲ認メ他公館トノ間ニハ英佛  
馬來語ノ平文以外ヲ認メス依テ交渉ノ結果在英大使宛ノミハ差支ナ  
キコトトナレリ不取敢  
尙本件ハ倫敦ヨリノ訓令ニ依ルモノニテ當地限りニテハ如何トモ致  
方ナキ旨申シ居レリ

英へ轉電セリ

改政情

04078

04077

秘

電信寫

昭和14 二九八五三 平 イスタンブル 九月一日發 歐情  
本 省 二日前着

阿部外務大臣 武官大使

第二五一號

一、土國政府ハ八月三十一日液體燃料(煤油等)ノ輸出ヲ禁止シタリ

二、獨逸「ライヒス」銀行代表者「ブラウン」三十一日東京獨逸通商

協定商議ノ爲ト報セラレ

三、新任ノ在土波蘭大使館附陸軍武官 Macielski 着任セリ

四、三十一日「ウルス」紙カ獨逸ノ進出カ「ベルサイユ」體制破壞ヨ

リ前進シ居ル點ヲ指摘シ平和確保ヲ平和戰線ノ強化ニ在リト論シ

タルハ注意ヲ惹キタリ

五、三十一日「ソフイア」來電ニ依リ「Vityjyenty」ハ集會ヲ禁シ

一部豫備兵ヲ短期召集セリ(丁)

歐情

04079

04080



電信寫

日 和 14 二九八七三 平 伯林 九月一日後發  
本省 二日前着

阿部外務大臣

犬島大使

第九〇四號

一日夕刻狀況左ノ通り

午後五時四十五分「ラヂオ」放送ハ左ノ如ク國防軍ノ占據ヲ發表  
シタリ(イ)上「シレンジャ」ヨリ進軍セル部隊ハ「カトヴィツ」ノ  
高地ニ在リ「チエス、チャウ」及其ノ北方ノ占據モ進歩ヲ見タリ  
(ロ)「ゴリドール」地方ニ進軍セル部隊ハ「ネツソエ」河ニ到達シ  
又「ブラーエ」河ヲ徒涉シ「グラウデンツ」ヲ攻撃中(ハ)南方ヨリ  
進軍セル部隊ハ「ノイエマルク」ト「ズーチア」ノ線 在リ「オ

ルザ」河ハ一地點ニ於テ渡河セリ(ニ)空軍ハ「ラメル」、「ブツイ  
ビ」、「ポトゼン」、「グラウデンツ」、「ラドム」、「カトツ  
ツツ」、「レーンベルヒ」、「クラカウ」ノ各飛行場ヲ炸撃シ各  
々之ヲ破壊セリ(ハ)練習船「シユレスウイヒ、ホルスタイン」ハ「  
ダンチヒ」ノ波國彈藥庫「ツエスタトブラツテ」ヲ砲撃セリ  
ニ伯林市ハ本夕ヨリ燈下管制ヲ實施セリ  
英、佛、伊、蘇へ轉電セリ

政情

04082

04081

電信寫

昭和14 二九八四九 平

倫敦 九月一日後發  
本省 二日前着

歐情

阿部外務大臣

重光大使

第一〇二九號

一般的情報

三十一日獨逸ヨリ放送セラレタル獨逸ノ波蘭ニ提案ノ経緯ハ英國政  
府ニ於テ何等承知セサル所ナリトノコトニテ右ハ波蘭政府ニ對スル  
正規ノ提案(内容モ大ナル妥協トハ認メラレス)ニハアラサルモノ  
ノ如ク而モ既ニ獨逸ニ於テ波蘭カ拒絕シタルモノト認ムル以上何等  
事態ニ變化ヲ與フルコトナキノミナラス如キ一種ノ最後の政略  
ハ益々相手方ノ態度ヲ強化セシメツツアルカ如シ時局既ニ救済ノ望

ナキカ如シ英國ノ海軍動員ニ於テ陸軍ノ動員モ進メラレ倫敦ノ海軍  
開始モソノタリ  
米へ轉電セリ

歐情

04084

04083



電信寫

昭和14 二九七九七 平

莫斯科 九月一日前發  
本省 一日夜着

歐

阿部外務大臣

東郷大使

第一〇四六號ノ一(別電)

近時歐洲ニ於ケル國際關係ハ頗ル緊張シ戰雲低迷シ居ルノミナラス  
一方極東ニ於テモ日本ハ支那ノ大部分ヲ占領シ且蘇聯ニ對シ敵對的  
態度ニ出テ居ルニ當リ平和ヲ愛好スル蘇聯トシテハ數月來英佛ト相  
互援助條約ニ關シ交渉ヲ繼續セルカ英佛側ノ態度ハ不誠意ニシテ蘇  
聯ニ對シテ平等相互ノ原則ヲ認メズ戰爭ノ場合英佛ニ對スル蘇聯ノ  
援助ヲ要望スルモ法律論ニ藉リテ蘇聯ノ立場ヲ孤立化セントセリ相  
互援助條約ノ實效ヲ舉クル爲招請セラレタル軍事專門委員會ニ於テ

英佛軍事委員ハ何等實質的ノ權限ヲ賦與サレ居ラス且右相互援助條  
約ニ於テ保障セラルヘキ波蘭ハ終始一貫蘇聯ノ軍事援助ヲ不必要ト  
シ之ヲ拒絕セリ

(續々)

04086

04085

32



電信寫

昭和十四年 二九八一六 平 莫斯科 九月一日後發  
本省 一日夜着 歐  
阿部外務大臣  
第一〇四六號ノ二(別電)  
東郷大使

斯クテ右英佛蘇交渉ハ全ク暗礁ニ乗上ケタリ蘇獨不可侵條約ハ其ノ結果成立セルモノニシテ條約成立ノ爲三國協定決裂セリトノ論ハ當ラス右決裂ノ責任ハ英佛竝ニ其ノ指導ノ下ニ在リタル波蘭ノ態度ニ歸スヘキモノナリ蘇聯ノ外交政策ハ第十八回黨大會ニ於ケル「スターリン」言明ノ如ク何レノ國トモ友隣關係ヲ維持シ戰爭ニ捲込マレサルニ在リ對獨關係ニ於テモ常ニ此ノ方針ニテ進ミ來レルカ不幸兩國關係ハ吾人ノ期待ニ伴ハス緊張ヲ續ケタルモ獨逸ハ二年前ヨリ獨

自通商協定ノ交渉ヲ提議シ居リ最近ニ至リ相互互讓ノ結果蘇聯ニ取リテモ他ニ比類ヲ見サル有利ナル協定ノ締結ヲ見タリ右通商交渉ノ締結中獨側ヨリ政治關係ニ於テモ兩國間ノ關係改善ヲ計リタキ旨ノ提議アリ蘇聯政府ハ之ヲ受諾シテ今次不可侵條約締結トナリタルモ)ナルカ右ハ蘇聯政府トシテ蘇聯邦竝ニ國民ノ利益ヲ擁護スル爲當然ノ措置ト言フヘシ(續ク)

04088

04087



電信寫

昭和14 二九八二二 平 莫斯科 九月一日後發  
本省 一日夜着

歇

阿部外務大臣

東郷大使

第一〇四六號ノ三(別電)

英。佛。米新聞界ノ一部特ニ其ノ政府御用ヲ勸ムル社會黨系一部ノ新聞ニ於テハ蘇聯カ一フアツシヨ一國ト此ノ種條約ヲ結ビタルコトヲ攻撃スルモノアルモ其ノ當ラサルハ蘇聯カ一九二六年獨逸ト中立條約ヲ結ビ更ニ波蘭其ノ他獨裁的傾向ヲ帶フル諸國家トノ條約締結ニ際シ執リタル態度ヨリモ判明スヘク今次條約カ戰爭ニ對シ備ヘントスルモノニアラスシテ蘇獨間ニ於テ戰爭ヲ回避セントスルモノナルニ依リテモ明カナルヘシ「リツベントロツプ」氏ノ莫斯科來往及

不可侵條約調印ハ昨日ノ敵ヲシテ今日ノ友タラシメ蘇聯ノ平和工作ノ支持者タラシメタルモノニシテ單ニ獨蘇兩國關係ノ改善ノ爲ノミナラス世界平和ニ貢獻スル歴史的事實ト云ヘシ從テ本條約ノ成立ニ關シテハ獨蘇間ニ戰爭勃發ヲ希望スル戰爭挑發者以外反對スル者アラサルヘシ云々(了)

04090

04089

電信寫

「ボボロ、デイタリア」紙モ述ヘタ通り我々ハ英佛カ「ムツソリ」ニ「首相ノ言ミ聽クヘキコトヲ勸告スル」ト述ヘテ居ル（了）

04092

電信寫

昭和14 二九七五六 平 本省 九月一日 後着  
阿部外務大臣  
特情 羅馬第一四九號  
羅馬各紙ハ卅一日モ外交折衝ト並行シテ各國ノ軍備カ一段ト強化サレ危機ハ少シモ去ラヌコトヲ強調シテ居ルカ就中「メツサジエロ」紙ハ  
「ヴェルサイユ」條約ノ改訂ニ依リ獨逸人ニ正義ヲ實現シテ遣ラネハ平和ハ絶望テアル伊太利ハ飽迄獨逸ヲ支持スル  
ト論シ「ボボロ、デイ、ローマ」紙ハ  
「ダンチツヒ」問題ノ解決ナクシテ時局收拾ノ道ハナイ昨卅日ノ

次

04091



秘

昭和14 二九八三八 (暗)

莫斯科 八月卅一日後發 歐、通  
本省 九月二 日前着

東郷大使

第一〇四〇號

今次獨蘇通商協定ニ關スル當地獨逸商務參事官ノ館員ニ對スル内話  
左ノ通り

一、本協定ニ依リ獨カ蘇聯邦ニ供給スル品目左ノ通り

(一)工場設備

(二)一般機械並ニ工作機械

(三)器具類

(四)石油工業設備

電信寫

(五)化學工業設備

(六)電氣工業設備

(七)船舶

(八)鐵道其ノ他交通運輸機關

(九)度量衡

(十)實驗室設備

(十一)一般代用品

ニ蘇聯邦ヨリ獨逸ニ供給スル品目左ノ通り(供給量順)

(一)木材(全供給量ノ約半分ヲ占ム)

(二)家畜飼料

(三)糖

改

04093

04094



秘

電信寫

(四) 棉花

(五) 毛皮

(六) 滑油

(七) 「マンガン」

(八) 石油及「ベンジン」

三、今次「クレジット」ハ一九三五年ノ夫レニ比シ蘇側ニ有利ナル其ノ主ナル點左ノ通り（括弧内ハ三五年ノ「クレジット」條件）

(イ) 年利五分（六分）

(ロ) 期限七年（五年）

(ハ) 獨逸政府ノ補償一〇〇%

尚蘇側ハ今次「クレジット」ヲ金融「クレジット」ト稱シ居ルモ

右ハ當ラス又「クレジット」ハ五萬馬克以上ノ註文ニ對シテノミ之ヲ與フ

四、開戦ノ場合獨蘇間共通國境ナク旁々獨逸カ蘇聯邦ヨリ原料品等ヲ入手スルハ多大ノ困難ヲ感スルニ至ルヘシ

獨へ轉電セリ

04096

04095

38

REEL No. A-0314



秘

昭和14 二九九三〇 (暗)

羅馬 九月二日前發  
本省 二日後着

歐

阿部外務大臣

白鳥大使

第二六九號 (至急)

外相多忙ニシテ面會叶ハサリシ爲本一日「ユー」次官ヲ往訪シ往電  
第二七〇號伊蘭議ノ「軍事的ニハ「イニ」アチ」ヲ取ラストハ  
争カ獨波間ニ上マラス英佛ノ參加ヲ見ル場合ニ於テモ然ルヤト尋ネ  
タルニ彼ハ之ヲ肯定シ伊太利トシテハ好意的中立ヲ守リ自ラハ手出  
シヲセヌ方針ナリ地中海ニ於ケル伊太利ノ地位ハ頗ル困難ニシテ我  
々カ當初ヨリ參戰スルモ莫遠トシテハ何等利益ヲ受タルコトナク從  
テ此ノ政府ノ決定ハ勿論強迫ノ全幅ノ同意ヲ得テ爲サレタルモノナ

電信寫

リト言ヘルカ同次官ハ最早全般的戰爭ハ避ケ得サルヘク伊太利ノ中  
立ト云フモホンノ當座ノ問題ニ過キサルヘシト述ヘタリ  
在歐各大使ヘ轉電セリ



電信寫

昭和四年 二九九一一 平 倫敦 九月一日後發

阿部外務大臣

第一號

重光大使

「ラウンド・テーブル」誌（九月號）ハ「日英關係」ト題スル左ノ  
要旨ノ論文ヲ掲載シ居レリ

一部論者ハ日英同盟繼續セラレ居リシナラハ極東ノ事態ハ惡化ヲ見  
サリシナルヘント説キ居ルモ第二次日英同盟當時ヨリ既ニ支那ニ於  
テハ日英ノ利害ハ衝突シ居レリ日本ノ目的ハ支那ニ於ケル政治的  
經濟的覇權ノ確立ニ在リ軍部モ極健派モ此ノ點ニ於テハ意見ノ相違  
ナシ今次事變ニ際シテハ懸念一致右ノ目的實現ニ邁進シ居ル處英國

之ヲ切害スルモノトシテ前同ノ反感ヲ招キ居レリ此ノ反英感情ハ  
實ニ日英ノ根本的利害對立ヨリ生シタルモノニシテ兩者ノ孰レカニ  
於テ政策ヲ變更セザル限り解消セズ日本カ野蠻ノ爲ニ疲弊スヘント  
觀ルハ當ラス他方英國ハ目下ノ處置力ヲ以テ日本ヲ牽制スル餘裕ナ  
ク又假ニ可能ナリトスルモ之ハ賢明ニアラス依テ英國トシテハ主義  
上ノ立場ト重要利益ヲ毀損セザルノ方法ヲ以テ日本ト妥協ヲ圖ルヘ  
キナリ然ルニ日本ニ於テ英國ノ讓歩ヲ取付ケ戰爭遂行ニ資セントス  
ル限り英國モ妥協ニ應シ難キニ依リ先ツ平和克復ヲ圖ラサルヘカラ  
ニ右ノ爲ニハ日本ノ困難ナル立場モ充分諒察シタル上ニテ英米佛カ  
九國條約ヲ修正シ日支問題解決ニ協力方ヲ申出ツルカ可ナルヘシ日  
支兩國ニ於テ無益ナル鬭争ヲ繼續スルハ遺憾ナルコトニシテ此ノ際  
列國ハ日本ニシテ平和ヲ欲スルニ於テハ日本ノ爲ニ利益トナルヘキ  
最大イニ協力スル用意アル旨ヲ提議スヘキニシテ日本ニ於テ之ヲ拒  
否スルニ於テハ經濟壓迫ヲ加ヘル外アルマシ云々了

04100

04089



秘

昭和14 二九九三一 (暗)

莫斯科 九月一日後發  
本省 二日後着

照

阿部外務大臣

東郷大使

第一〇五〇號

一日當地英國大使館武官ノ館員ニ對スル内話左ノ通り  
 一、獨ハ戦争回避ニ努メ對英提案ノ如キモ順次讓歩シツツアリ第一回  
 提案ハ(1)「ダンチヒ」(2)「コリドール」(3)「シレジア」(4)植民地  
 ノ要求セルカ英ノ拒絶ニ依リテ讓歩シ更ニ昨三十一日發表ノ提案  
 ニ於テハ多大ノ讓歩ヲ爲シ居リ若シ本案カ最初ヨリ提出サレタリ  
 トセハ之ヲ交渉ノ基礎トスルコト不可能ナラサリシナランモ今ト  
 ナリテハ困難ナルヘシ

電信寫

ニ伊ハ戦争ニ氣乘リセサルモ「ムソリニ」ハ餘リニ深入シ居リ結局  
 中立ハ不可能ナルヘシ但シ英佛側トシテハ伊カ參戰スル方却テ有  
 利ナリ何トナレハ伊ハ戰略的ニ獨逸側ノ弱味ナルノミナラス伊カ  
 中立ヲ守レハ伊ノ封鎖不可能ナルヲ以テ獨逸ハ伊ヲ通シテ物資輸  
 入ヲ計ルヘク從テ獨逸ヲ完全ニ封鎖スル爲ニハ伊ノ參戰ヲ有利ト  
 ス  
 三、「ベタン」元帥「フランコ」交渉ニ依リ大體西ノ中立ノ見極メ付  
 キタリ

獨蘇秘密協定ニ依リ或ハ蘇聯邦ハ東部波蘭ヲ占領スルヤモ知レス  
 何レニセヨ戦争當初ニ於テハ獨逸ハ壓倒的勝利ヲ獲得スヘキモ其  
 ノ後ノ持久戰ニ於テハ英佛側ニ勝算アリ戦争ハ大體三四年續クヘ  
 シ(丁)

41

04101

04102

電信寫

昭和14 二九九五四 平 本省 九月二日前着 情

阿部外務大臣

白鳥大使

特情 羅馬第一五〇號

伊太利政府ハ一日午後三時「ムソソリ」ニ首相司會ノ下ニ國務會議ヲ開催歐洲危局ニ對處ス、キ伊太利ノ態度ニ付重大協議ヲ行フコトトナツタ

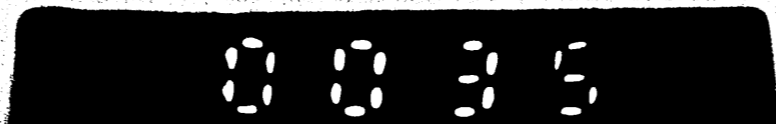
尙右決定ハ午後四時半「ラヂオ」ヲ通シ全國ニ放送サレル協定デア

(了)

42

04103

REEL No. A-0314





秘

昭和14 二九九二八 平 華府 九月一日後發  
本省 二日後着

阿部外務大臣

堀内大使

第九〇九號

米ノ動向

一、一日獨代理大使ヨリ國務長官ニ手交セラレタル「ヒ」總統ノ米大  
統領「メソセージ」ニ對スル回答要旨左ノ通り  
二十五、六日ノ大統領「メソセージ」ハ深ク感佩セル所ニシテ獨  
トシテハ波蘭トノ紛争ノ平和的解決ノ爲ノ措置ハ剩ス所ナク執レ  
ル次第ニシテ最後ノ瞬間ニ到リテモ尙英政府ノ仲介ヲ受諾シタル  
カ如キハ其ノ證左ナリ然レトモ今ヤ之等一切ノ努力ハ無ニ歸セリ

電信寫

云々

ニ波蘭大使ハ波蘭カ挑發セサルニ無警告ニテ獨ヨリ攻撃セラレタル  
カ最後迄抵抗スヘク力ト脅迫ノ効果ヲ歐洲ヨリ除キ自由生存確保  
ノ爲戰フヘシトノ趣旨ヲ放送セリ

英ニ轉電セリ

04105

04104

欠

秘

電信寫

昭和14 二九八五五 暗 盤谷 九月一日後發 本省 二日前着

阿部外務大臣

村井公使

第一八五號

歐洲政情ノ緊迫ニ當地方人心ハ相當動搖シ居ルモノノ如ク種々ノ流言流布セラレツツアル一方當國政府ハ廿九日附ヲ以テ本九月一日滿期除隊トナルヘキ兵士ニ對シ引續キ在營方命令セリ又先月三十日國防省ハ「ラデオ」ヲ通シ「歐洲政情ノ不安増大ニ關シ世界諸國ハ其ノ平和的解決ニ努力シツツアルモ「タイ」國政府ハ其ノ萬一ノ際領土保全ニ萬全ヲ期スヘク領海及國境各方面ヘ飛行機ヲ派シ嚴重警戒中ナリ」トノ聲明ヲ發表セリ  
新嘉坡 蘭貢 河内 匪貢ヘ暗送セリ

44

04106



電信寫

昭和14 二九九六六 略  
本 省 九月一日後發 米 歐  
二日夜着 通  
阿部外務大臣  
桑島大使  
第一六八號

獨波戰鬪開始ノ報ハ一日朝刊特別版ニ依リ速報セラレ一般ニ甚大ナル衝動ヲ與ヘ居ル處當國ハ人種關係複雜シ且歐米各國トノ間ニ政治經濟的ニ微妙ナル關係アルヲ以テ表面平靜ヲ裝ヒツツモ一般ニ英佛ノ參戰避ケ難シト觀念シ對策ヲ講シツツアルモノノ如シ政府ハ北伯地方ニ海軍ノ出動ヲ命シ海岸ノ監視ヲ一層嚴ニスルト共ニ應急措置トシテ本一日ヨリ四日迄商取引ノ停止ヲ命シ又外國人ノ取締ヲ嚴重ニシ外國公館及各官衙ニハ衛兵ヲ増派シ互ニ備ヘツツアリ尙數日來

時局緊迫ト共ニ歐洲方面トノ交通殆ト杜絶シ獨伊英佛等ノ汽船十數隻當國港ニ釘付ノ姿ニテ僅ニ當國船、和蘭及北歐諸國ノ船舶動キ居ルノミナル處他方南太平洋巡遊中ノ巡洋艦五隻當國各港ニテ待機シツツアリ  
當國經濟界ニ於テハ前回歐洲大戰ノ經驗ニ徴シ歐洲方面ニ於ケル珈琲市場ヲ失フモ他方軍需、食糧等ハ相當輸出増進ヲ期待シ現ニ英國向ケ多量ノ冷凍肉ノ注文ヲ受ケ居ル由  
管下各館ヘ暗送セリ

04108

04107

電信寫

訂正報

歐

八月三十一日着伯林來電第八八五號（總番號二九六四二、平）中左ノ通訂正方局報アリタルニ付右御訂正相成度シ  
第一頁、常設委員會トシテ國防參議會  
第二頁ニ國會ニ依ル法律ノ議決ヲ命セサル



秘

電信寫

昭和14 二九九〇九 (暗)

ワルソ 九月一日後發 歐  
本省 二日前着

阿部外務大臣

酒匂大使

第二四一號 (至急)

英)獨會談ニ關シ三十日當國外務省官房長ハ峰谷ニ對シ「ヒットラ  
」カ英首相ノ提案ヲ受諾セリトノ報ハ得居ルモ三十日迄ニ英政府  
側ヨリ公式通報ニ接シ居ラサル旨並ニ波蘭側ニ於テハ右受諾トハ獨  
逸側ニ於テ波蘭側ト平等ノ原則ニ依リ交渉セントスル意ニアラス  
テ現在ノ如キ威嚇的立場ニ於テ行ハントスルモノナルカ故ニ波蘭側  
ヨリ見レハ拒絕シタルト同様ナリトモ觀測セラルル旨述ベタリ從テ  
現在ノ英獨會談ニ付テハ必スソモ満足シ居ラサルカ如ク尙三十日發

令ノ總動員令及同日夜間以降實施セラレタル燈火管制其ノ他ノ防空  
演習等往覽第二三九號ノ如ク對獨對抗措置ヲ強化セラレ旁々三十日  
來類リナル英獨側ノ各種戰時準備對策報道ト相俟テ英獨會談直後一  
時緩和ノ徵アリタル事態ハ再ヒ緊迫シ來レルカ如シ  
在歐各大使、善府へ轉電セリ

47

04111

04110

REEL No. A-0314



秘

電信寫

昭和14 二九九〇 (暗)

ワルソ 九月一日後發  
本省 二日前着 歐

阿部外務大臣

酒匂大使

第二四二號 (至急)

一日正午「ベック」外相ハ往訪ノ本使ニ對シ遂ニ決戰トナレリ三十  
一日午後六時半「リブスキ」大使ヲシテ「リッペン」外相ハ直接  
交渉ニ應スル旨申入レシメタルモ「ヒットラー」ハ開戦ヲ命セリ此  
ノ上ハ飽迄交戦ノ覺悟ナリト決然トシテ語リ既ニ敵飛行機約八臺ヲ  
射落セル模様ナリトテ戦況ヲ述ヘタリ  
在歐各大使へ電報セリ

欧

48

04112

電信寫

昭和14 二九九〇八

平 巴里 九月一日後發  
本省 二日前着

阿部外務大臣

宮崎代理大使

第五五六號

一日午後八時半「ハヴアス」ハ駐獨佛大使ハ本夕獨政府ニ對シ英大  
使同様波蘭ニ對スル侵略行爲ノ即時中止及軍隊撤去ヲ要求シ満足ナ  
ル回答ナキ場合ハ直ニ旅券交付ヲ求ムヘキ旨發表セリ (了)

歐

49

04113



電信寫

昭和14 二九八五六 平  
オタワ 八月卅一日前發  
本省 九月二日前着  
大森代理公使

第一二六號

往電第一一三號末段ニ關シ

獨波御突ノ報ニ接シ加奈陀政府ハ一日早朝緊急閣議ヲ開キ七日議會  
召集ト決セリ(了)

改

50

04114

秘

電信寫

昭和14 二九七七四 暗  
新嘉坡 九月一日後發  
本省 一日夜着

岡本總領事

第二三六號

往電第二三五號ニ關シ

放ルヘク專ヲ穩便ニ運ヒタク更ニ民政長官ニ對シ實情ヲ訴ヘ其ノ  
處ヲ要望スルト共ニ總督ヘモ同様要求シ置キタル處一日朝總督ヨリ  
一日本船入港ニ關スル總テノ制限ヲ撤去ス一時的制限ニ依リ多大ノ  
不便ヲ與ヘタルコトヲ謝ス一ト申シ來レリ(了)

改

51

04115



秘

昭和14 二九八三八 (暗) 莫斯科 八月卅一日發 歐通

本省 九月二日前着 東郷大使

阿部外務大臣

第一〇四〇號

今次獨蘇通商協定ニ關スル當地獨逸商務參事官ノ館員ニ對スル内詰  
左ノ通り

一 本協定ニ依リ獨カ蘇聯邦ニ供給スル品目左ノ通り

(一) 工場設備

(二) 一般機械並ニ工作機械

(三) 器具類

(四) 石油工業設備

電信寫

(四) 棉花

(五) 毛皮

(六) 滑油

(七) 「マンガン」

(八) 石油及「ベンジン」

三、今次「クレジット」ハ一九三五年ノ夫レニ比シ蘇側ニ有利ナ、其  
ノ主ナル點左ノ通り(括弧内ハ三五年ノ「クレジット」條件)

(1) 年利五分(六分)

(2) 期限七年(五年)

(3) 獨逸政府ノ補償一〇〇%

(4) 尙蘇側ハ今次「クレジット」ヲ金融「クレジット」ト稱シ居ルモ

改

04117

04116



秘

電信寫

- (五) 化學工業設備
- (六) 電氣工業設備
- (七) 船舶
- (八) 鐵道其ノ他交通運輸機關
- (九) 度量衡
- ① 實驗室設備
- ② 一般代用品
- ニ 蘇聯邦ヨリ獨逸ニ供給スル品目左ノ通り(供給量順)
- (一) 木材(全供給量ノ約半分ヲ占ム)
- (二) 家畜飼料
- (三) 磷

右ハ當ラス又「クレジット」ハ五萬馬克以上ノ註文ニ對シテノミ  
 之ヲ與フ  
 四 開戦ノ場合獨逸間共通區域ナク旁々獨逸カ蘇聯邦ヨリ原料品等ヲ  
 入手スルハ多大ノ困難ヲ感スルニ至ルヘシ  
 獨逸へ轉電セリ

04118

04119